

大分県側の9自治体と豊予海峡を挟んだ対岸の愛媛県側9自治体間で「愛媛・大分市町村連絡会議」を立ち上げ、圏域同士の新たな交流がスタートしました。コラボ企画としてお互いの広報誌の相互掲載を行い、それぞれの歴史・文化や、食の魅力を紹介しています。

森の国松野町 ～豊かな森を未来まで持続させるために～

「この森にあそび この森に学びて あめつちの心に近づかむ」

今から約60年前、初代松野町長岡田倉太郎氏が遺した言葉です。国立公園滑床溪谷をはじめ、森林資源が豊富な松野町では、この言葉をまちづくりの理念として掲げ、様々な施策を展開していくなかで、いつしか森の国と呼ばれるようになりました。今回は、最近の取組をいくつかご紹介したいと思います。

この森に学ぶ ～木造による学校や役場庁舎の更新～

昭和40年代に建設された松野中学校を松野町産材桧の木造で新築、フィトンチッド漂う校舎で素晴らしい学びの環境が確保されています。町内の全小学校において床や壁などの木質化を行い、中学校と併せて子どもたちが町産材桧に囲まれて学習に取り組んでいます。

現在、昭和30年代に建設され老朽化した役場庁舎を町産材桧の木造にて建替え中で、今年12月中には完成します。工法も町産材桧のCLT(直交集成材)を採用、木造でありながら耐震性の確保と工期の短縮が実現できたほか、環境へ配慮した機能を揃えて、公共庁舎部門で省エネルギー率日本一(令和3年現在)を達成することとなりました。

また、庁舎建設の際に発生する町産材桧の一番玉(根元の部分)や曲がり材を活用して、町内全小中学校の児童生徒の学習用机・イスを整備し、校舎から身近に触れる机やイスまで全て町産材桧で整備し、子どもの頃から、森の国松野町の有する資源への理解を深める取組をしています。



町産材桧による木造の松野町庁舎



低利用部材を活用した小中学校の机・椅子



この森にあそび ～アウトドアパラダイスを目指して～

松野町では、様々な森の恵みを受けて生活をしています。その森を後世まで持続させるために、森への理解を深めるアウトドアスポーツ事業を展開しています。その種目も、キャニオニング、ラフティング、カヌー、トレッキング、トレイルラン、マウンテンバイク、フリークライミング、BBQなど、山・森・川の魅力を満喫できる内容で、いずれも日本屈指のフィールドと評価をうけています。これらの事業を進めるミッションは、「森を知り、森を正しく活用して、森を守る」です。ここにも先人の遺した「この森にあそび この森に学びて あめつちの心に近づかむ」が継承されています。



スリリングなキャニオニング 日本一のフィールドと呼ばれる



滑床溪谷には巨岩がごろごろ、フリークライミングのメッカ



日本一過酷な松野四万十バイクレース(MSBR)



美しい水・森の恵を満喫できるアクティビティ

問 愛媛県松野町役場 ふるさと創生課

☎ 0895-42-1116

松野町をもっと知りたい人はPR動画をチェック!

